

## サピックスキッズ合格者親子座談会

# 幼少期からの“体験”の積み重ねと 学習習慣の確立が志望校合格を後押し 「継続は力なり」を証明した8年間

ご出席者の皆さま

開成中 進学/K.Y.さん と お母さま

渋谷教育学園渋谷中 進学/U.Y.さん と お母さま

渋谷教育学園幕張中 進学/T.E.さん と お母さま

司 会

石垣知子先生（サピックスキッズ事業部）

西川敦先生（サピックス小学部 教務本部長）

学校でも新学年が始まり、1か月がたちました。学習の進め方や志望校選びなど、さまざまな悩みを抱えている方は多いのではないのでしょうか。そんな不安を解消するため、今月号では、幼児教室のサピックスキッズで2年間、サピックス小学部で6年間学び、この春に志望校に合格した3人の卒業生とその保護者の方に、それぞれの受験生活を振り返ってもらいました。楽しみながら学力の土台を築くサピックスキッズでの思い出や、志望校合格のために心がけてきたことなど、先輩たちが明かすリアルなエピソードのなかには、次年度以降に受験を控える皆さんにとっても参考となるヒントがきっとあるはずです。

## 8年ものサピックス生活を走り抜き 粘り強いがんばりで手にした志望校合格

**西川** 皆さん、合格おめでとうございます。長い受験生活を終えて、今どんな気持ちですか。

**K.Y.** 第一志望の開成に合格できて、本当にうれしいです。今は解放感でいっぱいです。

**U.Y.** 「やっと終わった」というのが正直な気持ちです。「ここは受かるだろう」と考えていた1月校に不合格となるなど、最後まで気の抜けない受験でしたが、無事に第一志望校に合格できてほっとしています。サピックスで同じクラスだった友人とは今も連絡を取り合っていて、つい先日も、お弁当を持ってピクニックに出掛けたところです。

**T.E.** サピックスキッズとサピックス小学部とを合わせて、わたしの通塾生活は8年にも上ります。それがついに終わってしまったと思うと、少し寂しい気持ちです。

**K.Y.母** あこがれの学校に合格をいただいて、本当に感無量です。わが子ながら、終盤の追い込みは目を見張るものがありました。学力面・精神面ともに著しい成長を遂げてくれたことを、とてもうれしく思っています。

**U.Y.母** 娘の受験生活は、好不調の波が激しく、わたしたち家族もジェットコースターに乗せられているような気分でした。しかし、最後の最後にすばらしいがんばりを見せてくれて、娘の新たな一面を知ることができました。受験がなければ、きっと親子でこんなに濃密な時間を過ごすことはなかったと思うと、貴重な体験ができたと感じています。

**T.E.母** 受験が終わった後、娘は「わたしがいちばん長く続けられた習い事は、サピックスなんだよ」と言っていました。4歳でサピックスキッズに入って8年間、雪の日も嵐の日も「楽しい!」と言ってサピックスに向かう姿は頼もしかったです。最後の受験まで走り抜けたことで、本人の自信にもつながったと思います。親としてはその成長がとてもうれしいです。

**石垣** 皆さんが年中のころから知っているのですが、当時の面影が思い出されて、とても懐かしい気持ちです。8年間、よくがんばりましたね。本当におめでとうございます。

## 総合的な知力を伸ばす指導方針に共鳴し 年中のときにサピックスキッズに入室

**西川** まず、皆さんがサピックスキッズに入室されたきっかけと、そのときの印象を教えてください。

**U.Y.母** わが家は、将来的に中学受験をするかどうかはさておき、娘には「世の中をおもしろくくらえられる人に育ってほしい」と思っていました。そのためにはどんな教育が必要なのだろうと雑誌や育児書をのぞいてみたところ、たいてい書かれているのは「買い物も、料理も、外遊びも、子どもの成長には不可欠な経験です。ぜひお子さんと一緒に取り組んでみましょう」といった内容でした。残念ながら、わたしはフルタイムで働いていることもあり、その役割を親が担うのは、時間と労力の両面で難しいと判断しました。そんなときに知ったのが、サピックスキッズの存在です。ことばや計算といった学習の基礎はもとより、季節や生活にかかわる常識も身につけて、世の中で必要とされる総合的な知力を効率的に伸ばせるのではないかと考えたのです。

**T.E.母** 自宅のすぐ近くにサピックス小学部の校舎があり、楽しそうに通う小学生の姿をよく目にしていたので、「入室に当たって、どのような準備が必要ですか」と、娘がまだ園児のころに校舎に問い合わせたことがあります。すると、対応してくれた校舎責任者の先生が「就学前にもいろいろ“仕込んでおくこと”

があるんですよ」とおっしゃって、サピックスキッズという幼児教室があることを教えてくださいました。とても興味深いお話だったので、すぐに体験レッスンを申し込みました。

**K.Y.母** わたしは、当時土曜日勤務のあるフルタイムワーカーでした。そのため、息子は0歳のときから、平日は保育園、土曜日は夫と2人で過ごすという生活を送ってきました。ある土曜日、いつものように夫に子守をお願いしていたところ、たまたまサピックスキッズの特別体験授業を見つけて、参加してきたというのです。「楽しそうな様子だったから、年中クラスの途中からになるけれど入室を決めてきた」という事後報告に、びっくりしたことを覚えています。当時の息子は、園庭を走り回るのが大好きなワイルドな子どもでしたが、パズルやブロックには高い集中力で取り組む一面がありました。入室を決めた背景には、サピックスキッズが、そうした息子の個性を伸ばしてくれるのではないかという期待もあったように思います。

## 家庭でも“体験”を重視した学びを实践 低学年のうちは身体的ハンディに考慮した工夫も

**西川** サピックスキッズの授業で、今でも覚えていることはありますか。

**T.E.** 印象深かったのは、オレンジの色水を、形状の違う二つの容器に移し替えて、量を比べるという授業です。先生が「ジュースを持ってきたよ」と冗談を言うので、クラスメートと「飲みたい、飲みたい」とはしゃいだのを覚えています。

**K.Y.** 身の回りの生活や季節のことを、アクティビティーを通して楽しく学べたのがよかったです。友だちとわいわい言いながら、ゲームで盛り上がったのも良い思い出です。

**U.Y.** 石垣先生がよくホワイトボードに書いてくれた「まるちゃん」というスマイルマークのキャラクターがお気に入りでした。「まるちゃんはこう言っているけど、みんなはどう思う？」と質問されると、違った視点から物事を考えることができ、毎回新しい発見がありました。

**石垣** 皆さん、8年前の授業の内容を細かく覚えてくれていて、とてもうれしいです。次に、サピックスキッズに通われていた当時、保護者の方が心がけていたことや、意識されていたことについて教えてください。

**T.E.母** 娘には、幅広い年齢の方と接することで、季節の行事や地域のならわしについて身近に感じてほしいと思っていました。自宅の近所にお寺があるのですが、娘は、その境内を散歩するのが大好きでした。そこに生息する昆虫や植物を観察したり、地域の人たちに行事に誘ってもらったりしました。そうした地域交流とサピックスキッズでの学びの両面から、娘は伸び伸びと知識を吸収していったように思います。また、サピックスキッズでは、授業後にその日の活動についてフィードバックをいただけたので、それを参考に、自宅でも季節のものを飾ったり、季節のケーキを買ったりして、家族全員でイベントを楽しむことを心がけました。

**K.Y.母** 授業後のフィードバックは、わが家も楽しみでした。授業に隠されている学習の意図をお聞きできたので、ただゲームを楽しんでいるように見えていた息子を、別の角度から見直すことができました。

サピックスキッズに入室したのは、中学受験のためではなく、あくまで「学ぶ楽しさを味わってほしい」という理由からです。そのため、サピックスキッズの授業はもとより、ふだんの生活でも、五感をフルに使って身の回りのものに触れることを心がけていました。それは、今の学力の土台になっていると感じます。

**U.Y.母** 娘は、興味のあるものとないものがはっきり分かれるタイプなので、娘が少しでも興味を示したも

のには、積極的にアプローチする機会をつくってきたつもりです。幸い、自宅の近くに大きな博物館や美術館があるので、休みの日はよく足を運んでいました。また、テキストに載っているような生き物も、できるだけ実際に見たり、触ったりして理解を深めてほしいと思っていたので、少し遠くにある大きな公園に出掛けて生物探索をすることもありました。

**西川** どのご家庭も、五感を使った“体験”を大切にしてくられたんですね。現在、お通いのサピックス生の保護者の方から、「どんな勉強をすればいいのでしょうか」と相談されることが多いのですが、特に低学年のうちは、机上の学習よりも五感を使った体験を増やすことが、お子さんの学力を伸ばすうえで重要なのだと再認識しました。さて、皆さんは、サピックスキッズを卒業した後、そのまま小学部に進まれましたね。小学部の授業の印象を教えてください。

**U.Y.** サピックスキッズのころと比べると、読み書きに求められる文字量が増えたので、正直なところ「ちょっと面倒くさいな」と思ったのを覚えています（笑）。

**T.E.** 校舎や先生、友だちなど環境は変わりましたが、新しい勉強にワクワクする気持ちもありました。

**K.Y.** サピックスキッズの授業は遊びの延長として受け止めていましたが、小学部では紙の上で問題を解く授業がメインになり、より“勉強”という面が色濃くなった印象があります。でも、校舎の友だちと仲良くなるにつれて、徐々にペースをつかんで、楽しめるようになっていきました。

**石垣** わたしたちも、できるだけスムーズに小学部に接続できるよう心がけています。しかし、学習強度は確実に上がりますから、そのギャップに皆さん戸惑いを感じつつもうまく順応し、徐々にペースをつかんでくれたところに頼もしさを感じます。お母さま方はいかがですか。

**K.Y.母** サピックスキッズと大きく異なるのは、テストによって成績が数値化される点です。日常のスパイスといえますか、気を引き締める良い材料になりました。低学年のうちは授業も週1回ですし、教材もキャラクターと一緒に進めていく形式でしたので、いくつかある習い事のなかの一つという感覚で、楽しみながら通うことができたと思います。

**U.Y.母** 小学部に上がって間もないころ、「おなかが痛い」と言って、行き渋りを始めたので心配しました。これは後になって気づいたことですが、親から見て「勉強がうまく進んでいないな」と感じるタイミングというのは、子どもの近視が進んだ、求められる文字量に手の力が追いついていないなど、身体的な理由が背景にあることが多いです。「どうしてできないの」と叱責するのではなく、子どもの目線に立って理由を探ってあげることが必要だったと反省しています。

**T.E.母** U.Y.さんのお母さまがおっしゃるとおり、低学年のうちはまだ体が完成していないので、筆圧や握力が弱いという理由から、文字がたくさん書けない、間違いを消しゴムできれいに消せないということが、娘にもありました。筆記することが苦痛になり、せっかくの思考が止まってしまうのはもったいないと思いました。そのため、わが家では娘の使いやすい鉛筆や消しゴム、時にはゲルボールペンのほうが手が楽だと言うので、そういったさまざまな文房具を用意して並べていました。その日の気分で選んでもらい、なるべく筆記のストレスを減らすように心がけました。高学年でも筆記は長時間にわたるので、年齢に合わせた文房具選びはとても大切だと思います。

**西川** 文房具の件は、教えている側からは気づかない視点でした。低学年特有の身体の状態を考慮に入れながら、ツールをうまく工夫して乗り越えるのがよさそうですね。次にお聞きしたいのが、サピックスと習い事との両立についてです。皆さんはどんな習い事をしていましたか。そして、どのように両立させていましたか。

**K.Y.** ぼくは、3年生まで水泳を、6年生の夏期講習の直前までサッカーを続けていました。サピックスとの両立は大変でしたが、勉強の息抜きにもなっていました。

**T.E.** わたしもサッカー、水泳、ギターなど、数えてみたところ、経験した習い事は10種類以上になります。5年生のタイミングですべてやめてしまいましたが、本当にやりたいことは受験を終えてから本格的に始めようと思い、さっそくテニスと声楽を再開しています。

**U.Y.** ピアノは4年生まで、水泳は5年生まで続けました。それに加えて、通っていた民間の学童で、プログラミングやサイエンスの講座を受講していました。いずれも楽しかったので、塾との両立が大変という感覚はありませんでした。

**K.Y.母** 5年生のときは、週3回サッカーの練習に行き、さらに週末は6年生の試合に帯同するなど、とても忙しい日々を過ごしていました。しかし、中学受験というのは、最後は体力勝負です。体力や根性を養うという意味でも、スポーツはやらせておいてよかったなと感じます。

**T.E.母** 5年生になると、サピックスの授業が週3回になるので、わが家では「4年生まではやりたい習い事は全部やる」という方針で、いろいろなことにチャレンジさせました。視野を広げる、適性を探るという点で有意義だったと思います。

**石垣** 皆さん、いろいろな習い事を比較的長く続けていらっしゃるんですね。習い事を制限するよりも、むしろ積極的に挑戦したほうが、時間の使い方がうまくなるのかもしれないね。

## 保護者にできる最大のサポートは 親子げんかを減らし、体調管理に徹すること

**西川** 得意教科や苦手教科について教えてください。

**K.Y.** 得意なのは算数です。サピックスキッズのころから『きらめき算数脳』を解くのが好きで、条件の入り組んだ難題を解くのは苦ではありませんでした。一方、苦手だったのは国語です。6年生の最後まで成績が上がらず、サピックスやプライベートの先生のアドバイスに従い、徐々に克服していきました。

**U.Y.** 得意教科は学年によって変わりました。1~2年生のときは国語、3年生は算数、4年生は社会、6年生後半からは理科が得意になりました。わたしの克服方法は“ゴリ押し”です。たくさん問題を解くことで、どの教科も少しずつ解法のコツがつかめるようになりました。

**T.E.** 得意なのは国語と理科、苦手なのは社会の暗記です。小さいころから生き物の観察が好きだったので、特に理科はお気に入りでした。渋谷教育学園幕張（渋幕）の入試の理科でテッポウウオの実験問題が出たときは、自分の得意な分野でうれしかったです。

**石垣** 志望校を決めたのはいつごろですか。

**T.E.** 共学というのは早くから決めていたのですが、大学付属などそれぞれの学校に魅力があり、入試の結果が出るまではっきりと第一志望が決められませんでした。複数合格したなかから最終的に渋幕を選択しましたが、自由で伸び伸びとした校風は自分に合っていると思います。

**U.Y.** 渋谷教育学園渋谷（渋渋）に初めてあこがれを抱いたのは4年生のときです。5年生から6年生にかけて「女子校もいいかもしれない」と迷い始め、いくつかの学校を見学しましたが、やはり共学のほうが自分には合っていると思い、あらためて渋渋を第一志望校に決めました。

**K.Y.** ぼくはサッカーをやっていたこともあり、人工芝のグラウンドがあることを軸に学校をふるいにかけていきました。そこから、文化祭の雰囲気が良かったこと、新校舎で学べることに魅力を感じて、5年生のころに開成を第一志望に決めました。

**西川** 受験勉強が本格化していくなかで、ご家庭で心がけていたことがあればお聞かせください。

**U.Y.母** 渋渋の入試では時事問題がよく取り上げられるため、日常会話にさりげなくニュースの話題を取り

入れて、そのテーマについて多角的に考えるきっかけを与えるよう意識していました。本人が形式ばった勉強を好まない性格であることはよくわかっていたので（笑）、できるだけ自然な形で関心を持ってほしいと思っていました。

**K.Y.母** 心がけていたのは、親子げんかをしないことです。通っていた校舎責任者の先生が繰り返しおっしゃっていたのが、「親子のバトルは時間の無駄です」というアドバイス。本当にそのとおりだと思い、息子の言動にストレスを感じても「バトルしない、バトルしない」と自分に言い聞かせ、心を落ち着けるように努めていました。

**T.E.母** 1週間の学習スケジュールをノートに書き、親子で共有するようにしていました。それこそ、「やった」「やってない」でバトルになるのを避けるためです。塾も学校生活も忙しくなる6年生の中盤ごろ、娘が帯状疱疹にかかったことがありました。主治医の先生の「子どもの帯状疱疹は、かなり免疫が落ちている証拠です」という指摘に親として重い責任を感じ、それ以降は休息を第一に考えた生活に切り替えました。学校から帰宅したら夜7~8時くらいまで寝て、そこからご飯を食べて、ノルマは特に設けず、11時くらいまで勉強して寝るというスタイルです。子どもの気力・体力を考慮したスケジュールで、けっして無理をさせないよう気をつけました。

**石垣** ご家庭のきめ細かいサポートがあってこそ、志望校合格が実現できるのだということがよく伝わってきます。続いて、皆さんの将来の夢を教えてください。

**K.Y.** 職業として明確なものはまだ決めていないのですが、世界の困っている人を助ける仕事がしたいと思っています。

**T.E.** わたしは生き物全般に興味があるので、医師と生物学者を両立したいと思っています。

**U.Y.** わたしはユニバーサルデザインに携わりたいと考えています。障害のある人でも、健常者と同じ生活が送れるような新しいアイデアを世の中に生み出していきたいです。

**西川** どれもすてきですね。お母さま方から見て、お子さんの強みはどこにあるとお考えですか。

**T.E.母** とにかく好奇心の塊であるところでしょうか。学校でも、クラスで飼っているメダカの産卵が始まると、給食を早く終わらせて見入っていたと聞きました。中学校でも、自分の好きなことを突き詰めてほしいと思います。

**U.Y.母** 性格が温厚なところと、柔軟な考え方を持っているところです。たとえば社会を勉強しているとき、「幕府と政府は何が違うの?」という疑問を持って、サピックスの先生に質問に行ったことがありました。親も考えたことのない視点から、物事に切り込んでいく感性を持っているので、中高6年間のなかで、その強みを伸ばしてほしいと思います。

**K.Y.母** 凝り性なところですね。幼少期から新幹線にはまると新幹線のすべての車両を、あるアニメにはまるとその登場キャラクターをすべて覚えるようなところがありました。中高生活でも、何かはまるものが見つかるといいなと思います。

**西川** 皆さんすばらしい個性をお持ちですね。中学校での活躍がますます楽しみです。

## サピックス生活のなかで身についた“自己肯定感”と“努力する姿勢”

**西川** 8年間にわたるサピックス生活を通して得られたもの、志望校合格の決め手となったものは何だと思えますか。

**U.Y.** 手に入れたものは、自己肯定感と「がんばれば何とかなる」という精神です。合格の決め手となっ

たのは、SS特訓で見つかった穴を土曜志望校別特訓で埋めて、それでもできなかつたら、これまで手をつけてこなかった基礎問題までさかのぼる、というサイクルを徹底したこと。それを繰り返すうちに、算数と理科の苦手分野が克服できました。

**T.E.** 受験で得られたものは、たくさんの知識です。わたしの場合は、いろいろな角度から考えるのが好きだったこともあり、応用問題が得意でした。それも入試でプラスにはたらいたのかなと思います。

**K.Y.** 努力することの大切さを学びました。合格の決め手は、冬期講習や正月特訓で、志望校に絞ったポイントを重点的にトレーニングしたことです。同じクラスの仲間とSS特訓の昼休みに騒いで先生に注意されたこともありましたが、団結力が強かったのも合格の要因のように思います。

**U.Y.母** 娘は3月末生まれということもあり、周囲の子どもに比べてずいぶんゆっくり成長しているように感じていました。しかし、終盤の追い込みは本当にすばらしく、それまで後回しにしてきた面倒な問題にも果敢に取り組む姿は、親から見ても感動を覚えるほどでした。また、サピックスの最後の授業で、クラスメートと「みんなで第一志望に受かって、お互いの文化祭に遊びに行こうね」と声を掛けて別れたと聞き、そのような温かい友人関係に恵まれたことも、今後の娘の人生の糧になるのではないかと考えています。

**T.E.母** 小さいころから幅広くやってきたことのひとつひとつが、最後に総合力として結実したことが合格の決め手になったと思います。「早くから準備してきてよかった」というのが率直な感想です。インターネットでは、早くから通塾することに対する批判的な意見を目にするがありますが、そこに漠然としたマイナスイメージを持つのは、非常にもったいないことだと思います。娘が、勉強の楽しさに早くから気づいてくれたこと、そして中学受験を意識する前に日々の学習習慣が確立できたことは、大きな財産となりました。

**K.Y.母** 実感したのは「継続は力なり」ということです。毎日、歯磨きをするような感覚で、「基礎力トレーニング」に1ページ1ページ取り組んできたことが、この結果につながったのだと思います。息子は、周囲にいる優秀なお友だちに刺激を受け、家に帰ると「同じクラスに〇〇くんという天才がいてね」「〇〇くんはこんな問題に答えられたんだよ」と目を輝かせて話していました。一人で勉強していたら生まれなかったであろう「負けたくない」「がんばりたい」という気持ちを、サピックスというハイレベルな環境が奮い起こし、息子を合格に導いてくれたのだと思います。中学校でも、周囲からの刺激を自己研鑽のエネルギーに変えてがんばってほしいと思います。あとはサピックスを信じること！

**西川** 最後に、後輩たちにメッセージをお願いします。

**K.Y.** 苦しくても、あきらめずに取り組んでいれば、結果は必ず返ってきます。最後までがんばってほしいです。

**T.E.** 入試本番で本気が出せれば、仮にそれまでの成績が芳しくなくても、うまくいくことがあると伝えたいです。入試当日は、苦手なこと、ネガティブなことを考えないようにすると、実力を発揮しやすくなりますよ。

**U.Y.** がんばれば何とかなります。最後まで自分の力を信じて、走り切ってください。

**石垣** 皆さんのおかげで、今日はとてもいい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。